

■実践報告

「金融経済教育発表会（常総市立水海道中学校）」（11月1日開催）

【学校の特徴・概要】

常総市立水海道中学校は、令和6年11月現在、全校生徒392名、学級数は特別支援4学級を含め16学級の中規模校です。「心豊かで自ら考え行動できる生徒」の育成を学校教育目標に掲げ、「夢と感動あふれる学校」を目指し、教育活動を行っています。

令和6年11月1日（金）に金融経済教育研究発表会を開催し、研究校として2年間（令和5・6年度）研究に取り組んできた成果を発表したほか、公開授業を開催し、J-FLEC認定講師の平澤浩子先生、常総市教育委員会指導課の指導主事の先生方からご指導をいただきました。

<参加者内訳>

生徒392名、開催校教員36名、教育委員会5名、県西教育事務所2名 他校教員23名、金融広報委員会3名、 合計461名

1. 研究について

本校では、学校スローガンである「夢と感動あふれる学校」を目指し、生徒の主体的な取り組みを重視した教育活動を推進してきました。しかし、夢や目標の実現に向けて、学校での学びを自己の将来と関連付けていくことや、他者と関わりを通して考えを深め広げていくことが本校の課題であると考えました。

そこで、金融教育の4つの分野のうち「キャリア教育」を重視した教育活動を実践することで、学習した内容が社会でどう活用できるのかを理解させたり、他者との関わり大切さや感動を実感させたりしながら自分の考えを広げたり深めたりできると考え、「キャリア教育」での四つの基礎的・汎用的能力の育成を重視した教育活動を行うことで、生徒一人一人が夢の実現に向けた力を育んでいけるであろうと考え研究を進めていきました。

2. 公開授業

（1）総合的な学習の時間（2年2・3・4組）

「働くことについて考えよう」

第2学年の生徒が、夏休みに職場体験学習を行いました。体験を通して、自分と仕事とのかかわりで考えたことを1年生に向けて分かりやすく伝えることを目標としました。キャリア教育の視点としては、職場体験で学んだことをプレゼンテーションで分かりやすく伝えること、金融教育の視点としては、職場体験を通して学んだことや考えたことを伝え、自分と仕事、社会とのかかわりについて理解することとし、生徒の主体的で探究的な学びを展開しながら、職業観や勤労観を理解させるとともに挨拶や言葉遣いなどのコミュニケーション能力を身に付けさせるよう計画を立てました。

当日の授業では、9つのブース業種別に設け、1年生に向け発表しました。プレゼンテーションの内容は、活動内容と体験を通して学んだことです。その後、1年生からの質疑応答に答える展開を体育館で行いました。2年生は1年生にわかりやすく伝えるためにプレゼンの内容や話し方を工夫していました。また、各ブースに職場体験の様子や各職業に関する掲示物を掲示し、発表内容が理解しやすいよう事前の準備もしっかり行っていたことが伺えました。



3 全体会

研究主任と各研究部チーフ（授業研究部、特別活動研究部、総合的な学習の時間研究部）からこれまで2年間の研究の主題や考え方、取り組み内容、成果と課題について発表しました。そして、J-FLEC 認定講師の平澤浩子先生、常総市教育委員会指導課指導主事の渡邊先生、大里先生、吉原先生より、公開授業の講評、学校教育の中での金融経済教育の在り方についてご指導をいただきました。今後の教育活動に向け、改めて「キャリア教育」の重要性や必要性、継続して取り組んで行くことの大切さを実感することができました。今後も「キャリア教育」の更なる充実を図ってまいります。



4 プログラム

13:30～14:20

公開授業

(1) 学級活動（2年1組）

「合唱コンクールに向けてどんなことを大切にしたらよいだろうか」

(2) 数学（3年3組）

「相似と比」

(3) 総合的な学習の時間（2年2・3・4組）

「働くことについて考えよう」

15:00～16:10

全体会

(1) 教育長あいさつ

常総市教育委員会教育長

岡野 克巳 先生

(2) 共催者あいさつ

茨城県金融広報委員会事務局長
(日本銀行水戸事務所企画役補佐)

齊藤 秀人 様

(3) 研究発表・質疑応答

常総市立水海道中学校 研究主任
同 授業研究部長
同 特別活動研究部長
同 総合的な学習の時間研究部長

大野 智仁
加納 優樹
山口 駿
小野塚 朱音

(4) 指導・講評

J-FLEC 認定講師
常総市教育委員会指導課指導主事
同
同

平澤 浩子 先生
渡邊 優子 先生
大里 修史 先生
吉原 秀明 先生

(5) 謝辞

常総市立水海道中学校長

中山 幸一

以上